



介護の魅力と価値を高めるのはあなたです

介護福祉経営士 ニュース KFK News

2022
9.30
No.99

CONTENTS

特集 介護ICTの導入は介護経営における喫緊の課題

現場にもマネジメント層にもICTに強い人材が求められる時代

2

● 今月の「介護ビジョン」
● 「登録アドバイザー」制度のご案内

4

● 合格者の声

5

● 第6回「介護福祉のみらい」作文コンクール
入選作品掲載

6

● 介護福祉経営士全国会議開催のお知らせ

7

● イベント紹介

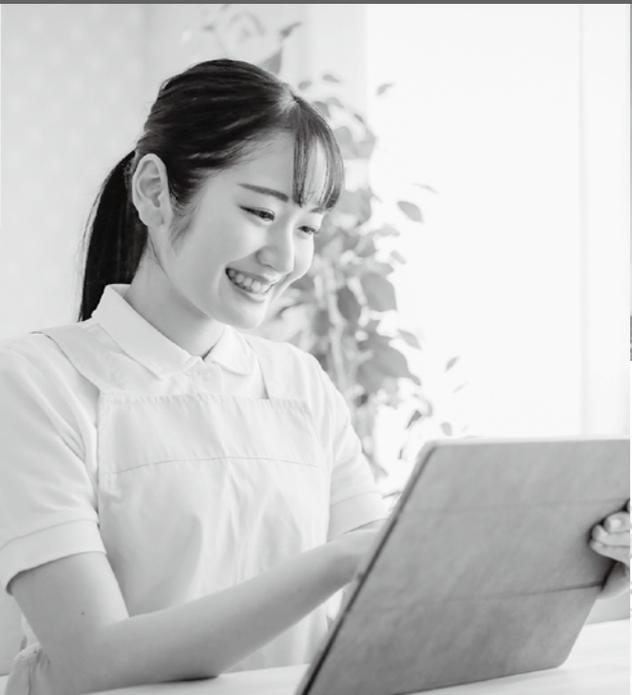
● 介護経営Lab投稿募集中!!

8

特集

介護ICTの導入は介護経営における喫緊の課題

現場にもマネジメント層にも ICTに強い人材が求められる時代



一般社団法人
日本介護福祉経営人材教育協会



お問い合わせ先

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会 事務局

☎ 03-3553-2896

http://www.nkfk.jp

〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号
S-GATE八丁堀9階

制作:株式会社日本医療企画

現場にもマネジメント層にも ICTに強い人材が求められる時代

ICT(Information and Communication Technology:情報通信技術)は、現在、スマートフォンやインターネットショッピングなど、日常生活のさまざまな場面で活用されるようになった。そして、介護現場においても、職員の業務効率化や負担軽減、コミュニケーションの促進などを目的としたICTの導入が着々と進みつつある。しかし、これまでマンパワー中心かつアナログで運用されてきた介護現場にとって、導入の敷居が高いこともまた事実だ。本特集ではこうした介護現場におけるICT導入の事情に詳しく、実際にICT導入に関わるコンサルティングやセミナー講師の経験を持つ神内秀之氏(ふくしのよろずや神内商店合同会社代表、介護福祉経営士1級)にICT導入のポイントについてお話を伺った。

介護現場へのICT導入状況

介護現場へのICT導入が推進される背景には、現在の介護業界の恒久的な課題である「人材不足」がある。2021年度に行われた介護報酬改定でも「介護人材の確保・介護現場の革新」の項目の中に「テクノロジーの活用や人員基準・運営基準の緩和を通じた業務効率化・業務負担軽減の推進」が盛り込まれ、介護現場の人材不足を補う1つの手段としてICTへの期待値が高いことがうかがえる。

また、厚生労働省は2024年度介護報酬改定のための準備として、介護現場におけるロボットや見守りセンサーなどのテクノロジー導入状況などを把握する実態調査と、テクノロジー活用による業務効率化やケアへの影響などにつ

いて具体的なデータを集める実証事業を進めている。これら調査の結果によっては、次回の報酬改定における人員配置基準の緩和がより具体化することとなる。

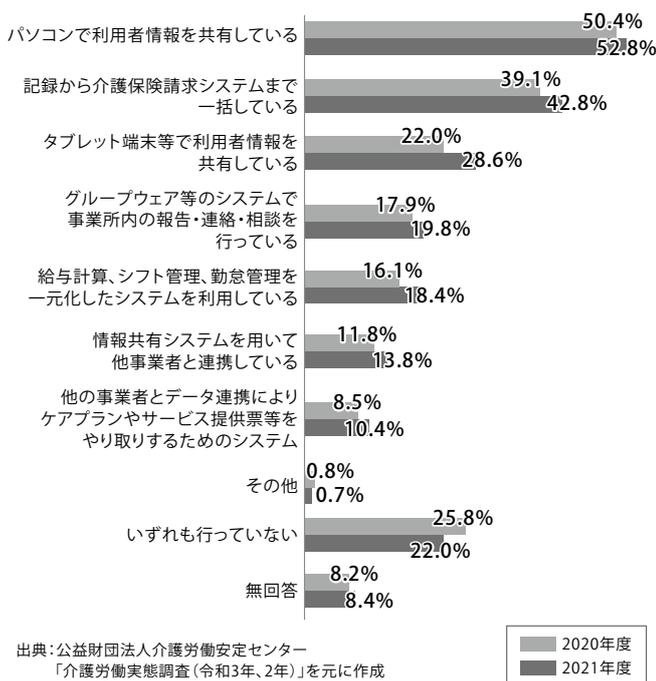
では、実際に介護現場のICT化はどの程度進んでいるのだろうか？ 図表は公益財団法人介護労働安定センターの実施する「介護労働実態調査」の結果をまとめたものである。2021年度と2020年度の結果を比較するとICT機器を活用する事業所は徐々に増えつつあることが分かる。しかし、全体的に見れば導入率は低く、ICTの導入が順調に進んでいるとは言い難い結果となっている。

これは介護現場へのICT機器導入にまだ課題が山積していることが背景にあると考えられる。同調査によれば介護現場が感じているICT機器などの導入や利用についての課題・問題は、「導入コストが高い」が48.3%で最も高く、次いで「設置や保管等に場所をとられてしまう」が25.2%、「投資に見合うだけの効果がない(事業規模から考えて必要ない)」が24.9%、「清掃や消耗品管理などの維持管理が大変である」が22.4%となっている。

こうした課題のうち、ICT導入の際のコストに関しては行政側もある程度理解を示しており、各都道府県に設置されている地域医療介護総合確保基金を活用した導入支援として「ICT導入支援事業」を実施している。事業規模に応じて100～260万円までが助成される。助成率は通常50%だが、「LIFEにデータを登録する体制が取れている場合」「標準仕様を活用してサービス提供票(サービス計画・サービス実績)を事業所間/施設内でデータ連携している場合」など一気通貫を要件に75%以上が助成される場合もある。ただし、こうした支援事業については各都道府県で実施状況が大きく異なる点には注意したい。

また、運用面への不安や、費用対効果に対するネガティ

図表 ● ICT機器の活用状況



ブな反応に対しては、行政主導の「ICT導入セミナー」などが活発に開催されている。

ICT導入のポイントは ICTに対応できる人材の育成

こうした状況を受けて神内氏は次のように語る。

「介護現場の意向に関係なく、ICTを導入せざるを得ない状況に追い込まれていると感じています。実際に人材が現場にいないこともそうですが、社会全体がICTを活用していく流れに逆らい、介護だけが最後の砦として残ることは現実的ではありません。しかし、介護現場のICTに対する認識は今までの介護機器の延長線上でとらえている人も多く、そもそもの信頼度があまり高くない。加えてソリューションとしてのコストの高さに躊躇している部分もあり、今のやり方がよいと考えている事業所も多いと感じています。そうした事業所に対しては相当な手間をかけてナーチャリング(顧客の育成)を行い、ビジョンやストーリーを見せていかなければ変化を起こすのは難しいでしょう」

一方で、うまく状況に適応し、ICT導入をスムーズに進めている事業所も増えてきているという。

「うまく導入を進めているところは、コミュニケーションツールとして操作や導入プロセスがシンプルなビジネスチャットシステムの導入から始めるなど、段階を踏みながら進めています。組織内の課題について戦略・戦術的に思考できる人材が中心となり、その上でICT導入ありきで話を進めるのではなく、『現場職員の負担を軽減するためにこういった工夫をしたい』『こんなサービスを始めたい』といった、元から自分たちが持っていた明確なビジョンを実現するためのツールとしてICTの導入を決める、というプロセスを踏んでいるところは自然とICTに適応しているように思います」

また、このようにICT導入をスムーズに進めている事業所の特徴として、ICTに対応できる人材を確保できている点が大いと言う。

「トップマネジャーやミドルマネジャー層にICTの情報に明るい人材がいることは導入成功のための重要な要素です。そうした人材がいない状態で、成功事例だけを参考に拙速なICT化を進めると、かえって業務が煩雑になったり、職員のハレーションにつながったりと逆効果になりかねません。自分の事業所の規模感をしっかりと把握し、見通しを立ててアーキテクトを担える人材が必要です。その点が

ら見ると介護福祉のマネジメントの専門家である介護福祉経営士がそうした役割を担っていくべきだと思います。例えば、北海道では行政主導で介護事業所生産性向上推進モデル事業が実施されています。ICTや介護ロボット等テクノロジーの活用等による業務改善を行う介護事業所をモデル事業所として選定し、その取組の支援をするとともに、改善成果を全道展開する標記事業を実施し、道内の介護事業所の生産性向上の推進を図っています。

こうした事業に積極的に参画していくことも、スムーズなICT導入の道筋を立てるポイントとなります。介護福祉経営士にはこうした情報に対してアンテナを立てるとともに、生産性向上という観点から組織改革のきっかけ作りを担う人材として活躍していただきたいと思います」

さらに、介護業界におけるICT導入についての考え方について神内氏は次のように述べる。

「行政の補助金は魔法の杖でなく、あくまできっかけです。介護事業所に求められるのは、そのきっかけを使ってどのタイミングで上昇気流に乗るかどうかの判断です。また、同時にICTも万能の薬ではありません。その認識がなければ、ただ単にデジタル化されただけで止まってしまいます。その先のデジタルイゼーション(デジタル化によって経営モデルを変革すること)やデジタルトランスフォーメーション(DX)に進むためには、使う側の人間が成長していくことが求められています。介護技術だけの育成ではなく、データの活用や分析といった技術を高めることで、介護という仕事の整合性がより高まっていくはずで、ICT導入によって、従来、暗黙知をベースに行われてきた介護技術を見える化、数値化することができれば人材不足対策だけでなく、介護の質の向上につながっていくと思います」

Profile

神内 秀之介氏

ふくしのよろずや神内商店
合同会社 代表
介護福祉経営士1級



北海道公共政策大学院卒。介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員、スマート介護士など。公益社団法人北海道社会福祉士会理事、一般社団法人北海道介護支援専門員協会理事、一般社団法人北海道ケアマネジメントサポートリンク理事、札幌保健医療大学非常勤講師などを務める。現在は、介護経営のコンサルタントとして、講演活動やさまざまな経営のアドバイスを行っている。

地域のニーズをすくい上げ
地域から超高齢社会を支えていくための
視点を具体的事例とともに掲載

介護ビジョン

今月の

第1特集

介護現場の課題といえば
最初に上がるのが人材不足。

募集しても人が来ないという法人がある一方で、採用にそこまで苦勞していない法人もある。

本特集では人が集まる法人が、どのように人を集め、採用に結び付けているのかを探る。

なぜ、あの事業所には人が来るのか 人気法人の採用戦略を探る

解説 介護事業所における採用戦略において必要なこと
片山海斗 (Professional Care Japan代表)

事例1 業界に対するイメージの変化を察知
介護に興味をわくように導く
SOMPOケア株式会社

事例2 働き方や職場環境をアピールし
学生に介護への関心をもたせる
株式会社ケアリッツ・アンド・パートナーズ

事例3 先駆的な取り組みのアピールと
体制の整備で新卒を確保
社会福祉法人南高愛隣会

事例4 介護者・利用者の境目を曖昧にし
自然と人が集まる仕組みをつくる
みんなの家タブノキ

第2特集

なぜ、あの事業所で働きたいのか？ 学生が選ぶ法人・施設大解剖

2022年10月号
(2022年
9月20日発売)



<http://www.jmp.co.jp/carevision/>

- 毎月20日発行
- 定価：1,320円(税込)
- 定期購読料：15,840円(税込)
- ※ 会員価格は12,672円(税込)

【購入に関するお問い合わせ】
株式会社日本医療企画 Tel:03-3553-2891



「登録アドバイザー」制度のご案内

株式会社日本医療企画

株式会社日本医療企画が運営するヘルスケアマネジメントの情報サイト「ヘルスケア・マネジメント.com」にて「登録アドバイザー」制度を開始しました。医療経営士、介護福祉経営士、栄養経営士の皆様にサイト上で「登録アドバイザー」にご登録いただくと、福祉施設・企業等がその情報を自由に閲覧・検索できるシステムです。経営士の方であればどなたでも無料で登録が可能となっております。

困りごとを抱える福祉施設・企業等と今大活躍中の経営士とをつなぐ場となっておりますので、皆様の活動の場を広げるきっかけとしてぜひご活用ください。

HC ヘルスケア・マネジメント.com

<https://healthcare-mgt.com/adviser-list/about-adviser/>

■お問い合わせ：ヘルスケア・マネジメント.com事務局 (株式会社日本医療企画内 Tel:03-3553-2863)



▲詳細・登録はこちら

地域ニーズの実現に資格を活かしていきたい



山田 佳史 ●やまだ・よしひと

株式会社こんにちわ 事務長
介護福祉経営士1級試験合格/ファイナンシャルプランナー

「株式会社こんにちわ」は7年半ほど前に看護師であった私の母親が設立し、訪問看護ステーションを運営しています。私は事務長として、医療事務・人事労務・経理など、事務全般に関わる業務を行っています。

元々は銀行や飲食店などで勤務する傍ら、事務周りの業務をサポートする形で関わっていました。しかし、「一人ひとりの利用者向き合いながら、安心・安全・安楽の生活を支えたい」という社長である母の思いを実現するためにはマネジメントをより充実させる必要があると考え、3年前から本格的に事務長として勤務し始めました。

在宅医療・介護業界に飛び込んでみて感じたのは、利用者本位の支援と事業所の経営課題の両立の難しさでした。本来であれば利用者は自分の好きな事業所を選ぶことができるはずなのに、結局のところ地域連携との兼ね合いで選べる選択肢が限られています。一方で事業所としては事業継続のために報酬の点数や人員配置など経営的な視点を重視せざるを得ず、利用者本位だけを考えてサービス提供を行っていくことは難しい。長く続いている事業所はこうしたバランスをうまくとっている所なのだと思います。

当社では私が事務管理などのマネジメントを一手に引き受けることで、プレイヤーとしてサービス提供を行っている現場スタッフと住み分けを行い、スムーズな事業運営につなげることができていると考えています。

介護福祉経営士を取得しようと考えたのは、このように事業所の経営的な部分に携わる立場にいたることが大きな理由です。今後も事業所の運営に関わっていくにあたり、現在の私の担当する実務周辺の仕事内容を介護経営的な視点から一度整理し、ブラッシュアップしたいと考えていた際、目についたのが「介護福祉経営士」でした。1から学び始めるのではなく、ある程度体系的にまとめられた知識を学ぶ方が効率的だと考え、取得のための勉強を始めました。

実際に勉強を進めてみると、実務部分の知識があることに加え、銀行での勤務経験があったため資金繰りなどの仕組みを理解していたことで、スムーズに学習を進めることができました。自分の知識の良い見直し・整理の機会になったと思います。先日は1級試験にも合格することができました。

今後は、介護福祉経営士として事業所としての強みを活かしながら介護経営に携わっていきたくと考えています。例えば、当社では子どもを育てながら看護師として活躍したい方が働きやすい職場づくりを行っています。ワーク・ライフバランスを重視することで給与や福利厚生面に勝る大病院との差別化を図っています。こうした部分をより強化していくために今後も学びを続け、介護業界全体を見渡せる視点を重視した事業運営を行っていきたくと思います。

介護福祉経営士テキストのご案内

介護福祉経営士テキストシリーズは、「介護福祉経営士」の試験科目に対応しています。

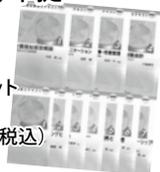
いまなら

「介護福祉経営士2級資格認定試験対策 — 合格サポートブック —」がもらえる!!

介護福祉経営士テキストのご案内

介護福祉経営士
1級試験 準拠

実践編
全11巻セット
特別価格:
26,190円(税込)



介護福祉経営士
2級試験 準拠

基礎編
全10巻セット
特別価格:
24,100円(税込)



「合格サポートブック」とは

- 「介護福祉経営士テキスト」基礎編(10巻)各巻の重要ポイントの解説を掲載
 - 予想問題を掲載
 - 第1回「介護福祉経営士2級」資格認定試験で実際に出題された問題を一部掲載。
- ※解説は(株)日本医療企画によるものです。

※株式会社日本医療企画へ直接お申し込みされた場合の価格となります。

テキストのお申し込み、お問い合わせは株式会社日本医療企画ホームページへ
▶<http://www.jmp.co.jp/>



第6回「介護福祉のみらい」作文コンクール 入選作品掲載

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、将来を担う中学生、高校生に、介護や福祉の大切さを知り、未来について考え発表する機会とすることを目的として、第6回「介護福祉のみらい」作文コンクールを実施しました。全国より応募総数 621編の作品が寄せられ、黒澤貞夫審査委員長（日本生活支援学会会長／浦和大学名誉教授）のもと、厳正な審査を行いました。以下に入選作品を掲載いたします。

最優秀賞

「介護や福祉に関する 実体験を通して感じたこと」

たがしま あきら
高嶋 晶さん

（学校法人福井精華学園 啓新高等学校 1年）

机の上に置かれた置き手紙。そこには、祖父の通う施設の迎えがいつ来るのか書かれている。それを見て祖父は、

「今何時や。もうすぐ来るんか」

と私に聞く。それに私は、

「もうすぐ九時やで、そろそろ来るよ」

と答える。そんな会話を何回か続ける。

「おら、物忘れひどいでごめんな」

と祖父は苦笑いしながら言う。そうしながら、施設の迎えを待つのが日常だ。

祖父は、小さい頃は戦争のための訓練を受けたり、大人になると消防団で三十年間無償で働いたりした。祖父は人柄が良く、親戚や近所の人などに慕われていた。

しかし、そんな祖父はある病気にかかってしまった。認知症だ。最初は、病院までの道が思い出せないなどと軽い症状だったが、人の名前がわからない、ごはんを食べたか覚えていないなどとだんだんとその病状は重くなっていった。

家族は、祖父が認知症になっていることに気づかず、よく口げんかをしていた。祖父が悪気なく少し変わった行動をすることに対して腹を立てることもあった。

祖父が認知症を患っていると判明してからしばらくして、母から言われた。

「これからは、置き手紙を残したり、おじいちゃんの側で何回も説明してあげてね」。

祖父の今日の予定、昼ごはんのことや歯ブラシなど、できる限り置き手紙を残したり、名前を書いたりした。そうしたことで、祖父が自分の物ではない物を使うことはなくなったり、家族が祖父に対して腹を立てることはなくなった。その時母が言っていた、

「おじいちゃんは一秒一秒新しくなっているだけで何も変わってないんだよ」

という言葉は今でも深く心に残っている。

祖父が認知症になってから、大切だと思ったことがいくつかある。一つ目は、介護されている人が一番困っていることを知ることである。介護している側の人がたくさんの面で大変で、余裕がなくなりがちだからこそ、このことをいつも心のどこかで思っていたと感じた。二つ目に、介護されている人と接する時には感情的にならず冷静になることだ。介護している人が感情的になると、介護されている人まで感情的になってしまうからだ。最後に、愛情を持って一人の人として接することだ。今までいろんな人からもらった愛を今度は返せるように優しく接することが絆につながるだろう。

祖父は今年から老人ホームに入り、たまにしか会えない。寂しい気持ちもあるが、この経験をいかして、観察してよく考え、みんなと話し合い、工夫して、介護される人が心地よいと思えるような介護をこれからしていきたいと考える。

受賞者コメント

このような賞を受賞することができとても嬉しく思っています。夢を持ち介護福祉士になるためにたくさん経験を積んでいきます。

高嶋 晶さん



審査委員長のコメント

随筆の冒頭のような出だしで、続きを読みたい気持ちにさせてくれます。介護の神髄について語っており、最優秀賞にふさわしい作品です。

※学年は応募当時のものです。



一般社団法人

日本介護福祉経営人材教育協会

／ 創立10周年記念 ／

介護福祉経営士 全国会議 2022

混迷の時代を乗り越える“介護福祉経営士” ——マネジメント力と組織力を向上させる職域を考える

超高齢社会の進展を背景に、介護福祉業界はますます混迷を極めています。さまざまな課題・問題が山積するなか、今こそ介護福祉経営士をはじめ業界が丸となって知恵を集め、課題・問題解決に向けた行動を実践しなければなりません。このたび一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会創立10周年を記念し、「介護福祉経営士 全国会議 2022」をオンライン形式で開催します。混迷の時代の乗り越え方を、さまざまな角度から議論する本会議に奮ってご参加ください。

「特別講演」&「基調講演」ウェブ配信期間

11/11 Fri. ~ 11/30 Wed. 各30分
※事前収録による配信

特別講演 介護保険制度の行方とこれから求められる介護福祉人材
——豊かな高齢社会の実現に向けて今なすべきこと



○ 講師
宮島俊彦氏
(兵庫県立大学客員教授/元厚生労働省老健局長)

基調講演

混迷の時代を乗り越える“介護福祉経営士”
——介護福祉業界が歩んできた10年と将来展望



○ 講師
廣江研氏
(社会福祉法人こうほうえん会長/協会中国支部長)

「全国会議」ライブ配信期間

11/25 Fri. 14:00 ~ 16:00
90分+質疑応答30分

全国会議 介護事業のマネジメント力と組織力を向上させる職域を考える
——職員が働きやすい職場環境の整備に不可欠な条件とは



○ 司会
青木正人氏
(株式会社ウエルビー代表取締役/協会理事)

○ 登壇者

田中卓氏(株式会社ファミリーケアサポート/介護福祉経営士1級/北海道)

堀雅洋氏(社会福祉法人うらら/介護福祉経営士2級/東京都)

辻中勝氏(株式会社Twins family/介護福祉経営士1級/大阪府)

河野寛之氏(株式会社ローカルトレイン/介護福祉経営士2級/大分県)

※内容はすべて予定です。登壇者及び内容は、予告なく変更する場合があります。

参加費: 会員2,000円 / 一般3,000円 *会員とは、介護福祉経営士、医療経営士、栄養経営士の正会員(申請中も含む)を指します。

申込み: 右記QRコードより協会ホームページ内「介護福祉経営士全国会議2022」特設ページにてお申し込みください。
<http://www.nkfk.jp/>



主催: 一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会

介護福祉経営士が知っておきたい！ イベント紹介

介護福祉経営士に必要な知識や情報が得られるイベントを紹介。スキルを磨き、経営士同士が切磋琢磨できる場として人気の研究会も多いので、ぜひ参加しよう。

URLをクリックまたはタップするとお申し込みページへ移動します

日本ヘルスケアダイバーシティ学会

第6回 日本ヘルスケアダイバーシティ学会

「多様性がつながく、人づくり・組織づくり・地域づくり」をテーマに開催。特別講演の講師は、8年前、東京23区で唯一「消滅可能性都市」と指摘された豊島区で、誰もが「わたしらしく、暮らせる」ダイバーシティに基づくユニバーサルなまちづくりを目指した「としまF1会議」で座長を務めた萩原なつ子氏。Well-Being（ウェルビーイング）なコミュニティについて語る、必聴の内容です。

特別講演

「東京都豊島区『としまF1会議』から考えるWell-Beingなコミュニティ」
萩原なつ子氏
(独立行政法人国立女性教育会館理事長、NPO法人日本NPOセンター代表理事)

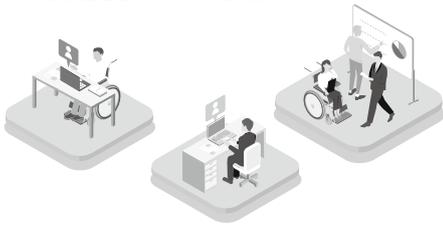
シンポジウム

「医師と医療従事者の働き方改革」

座長：
・安藤高夫氏
(医療法人社団永生会理事長・第6回日本ヘルスケアダイバーシティ学会大会長)

シンポジスト：
・渋谷明隆氏
(学校法人北里研究所常任理事)
・長堀薫氏
(国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院病院長)
・小西竜太氏
(エム・シー・ヘルスケアホールディングス株式会社上席執行役員CSO/CMO)
・田中志子氏
(医療法人大誠会理事長)

- 日時:2022年11月3日(木・祝)10:00~16:00
- 開催方法:オンライン(ライブ配信)および会場
- 会場:国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス(東京都港区赤坂4-1-26)
- 定員:オンライン200名、会場100名
- 受講料:事前申し込み 会員4,000円、一般5,000円
当日参加6,000円
※いずれも税込 ※当協会会員は会員価格でご参加いただけます
- 大会長:安藤高夫氏(医療法人社団永生会理事長)
- 主催:一般社団法人日本ヘルスケアダイバーシティ学会
- 後援:一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会 他



お申し込みはこちら▼

<https://japanhealthcarediversity6th.peatix.com/>

お問い合わせ

株式会社日本医療企画 九州支社
TEL:092-418-2828



日本医療経営実践協会

第11回 全国医療経営士実践研究大会・WEB大会 病院経営は新たなステージへ！ 医療経営士の職域確立からはじまる人材革命

プログラム

【配信】特別対談 アフターコロナ時代の医療と経済、医療機関経営
石田昌宏氏(参議院議員)

吉長成恭氏(大会運営委員長/一般社団法人日本医療経営実践協会参与/
甲子園短期大学特任教授 教育研究センター長)

【配信】基調講演 医療経営士の職域確立とこれからの人材教育
神野正博氏(一般社団法人日本医療経営実践協会理事/一般社団法人日本医療
経営職域対策協議会代表理事/公益社団法人全日本病院協会副会
長/一般社団法人日本病院会常任理事/社会医療法人財団董仙会
恵寿総合病院理事長)

【配信】トークセッション 座談会 病院経営は新たなステージへ！
—今、求められる“人財”と組織体制

【ライブ】スペシャルトークセッション 医療経営士 思考塾
医療経営に関する悩みを参加者全員で考えよう！

2022年11月8日(火)15:00~16:00

【配信】医療経営士 演題発表

【ライブ】演題発表者 ディスカッション・質疑応答
2022年11月17日(木)14:00~17:00

■参加費:医療経営士・介護福祉経営士 3,000円、一般 5,000円 ※税込

配信期間:
2022年11月1日(火)
~30日(水)

お申し込みはこちら▼

<https://conference-jmmpa.jp/>

お問い合わせ

一般社団法人日本医療経営実践協会
TEL:03-3553-2906



保健・医療・福祉サービス研究会

科学的介護の実現とLIFEフィードバックデータ活用セミナー 科学的介護実現に向けたLIFEへの完全対応と 事例に学ぶフィードバックデータ活用の具体策

LIFE創設の目的は単にデータ提出や加算算定にあらず、あくまでも自立支援促進のためのフィードバックデータの有効活用にある！
2021年介護報酬改定に伴い加速する介護DXに対応し、ICT活用のインフラ整備やその取り組みの実際と今後の経営戦略を徹底解説！

■日時:2022年10月22日(土)13:30~17:30

■講師:小濱道博氏(小濱介護経営事務所代表、株式会社ベストワン取締役)

■開催方法:会場&オンライン&オンデマンド&DVD&CD(選択可)

■会場:コリドースクエア銀座7丁目(旧銀座同和ビル)2F[HMSセミナールーム]
(東京都中央区銀座7-2-22)

■参加料:一般26,400円、HMS会員(法人・個人会員)23,760円
HMS会員(会報誌購読会員)25,080円 ※税込

お申し込みはこちら▼

<https://www.hms-seminar.com/seminar/?id=1657090783-712174&ca=&le=&ar=>

お問い合わせ

保健・医療・福祉サービス研究会
TEL:03-6228-5995



介護経営Lab 投稿募集中!!

介護経営Labは介護福祉経営士の皆さんが普段感じられている悩みや、疑問をご投稿いただき、有志の介護福祉経営士がそれに応える読者参加型の企画です。

お寄せいただいた投稿を「介護福祉経営士ニュース」の紙面上でご紹介させていただきます。(また、記事の寄稿をご希望の場合は同フォームの備考欄にご記入ください。「介護経営Lab」とは別に記事掲載に関してご連絡させていただきます)

URLをクリックまたはタップすると投稿フォームに移動します

<https://forms.gle/CYdvt3c3zPirsimj6>

